

(別表)

## 先天性風疹症候群診断基準

### I 臨床的基準

ウイルス血清学的検査により確認することが必要である。

- A ① 先天性白内障，または緑内障  
② 先天性心疾患  
動脈管開存，肺動脈狭窄，心室中隔欠損，心房中隔欠損など  
③ 感音性難聴
- B ① 網膜症  
② 骨端発育障害線 (XP)  
③ 低出生時体重  
④ ④ 血小板減少性紫斑病 (新生児期のもの)  
⑤ 肝脾腫 (黄疸を伴うもの，あるいは伴わないもの)
- C 小眼球症，角膜混濁，紅彩形成不全  
間質性肺炎 (新生児期のもの)  
新生児髄膜炎 (非細菌性)  
手掌紋異常  
小頭症  
知能障害 (脳性まひを伴うもの，伴わないもの)
- A 2ツ以上  
A 1ツ+B 2ツ以上  
A②またはA③ + B①  
C の症状は参考とする
- } 先天風疹が強く疑われる。

### II ウイルス血清学的基準

#### 1. 風疹ウイルスの分離

新生児-乳児期 鼻咽頭または尿からの分離

(出生児80%，6カ月約20%，12~18カ月5%以下)

リンパ球，肝，骨髓，髄液等からは乳児期早期まで，白内障材料からは4歳以上まで分離できる。

#### 2. 抗体検査

a. 6~11カ月乳児期における風疹HI抗体の持続。

ただし，周囲の風疹流行がない場合には，幼児期(4歳頃まで)まで拡大しうる。

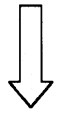
b. 0~6カ月児における風疹HI抗体価の異常高値。

6 カ月以降に再検して持続を確かめることが望ましい。

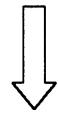
c. 血清 I g M 中の風疹特異抗体の証明。

6～8 週まで検査しうる。

注： 血清 I g M 定量で  $20 \text{ mg/dl}$  以上は胎内感染（風疹に限らない）を疑う根拠となる。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



I 臨床的基準

ウイルス血清学的検査により確認することが必要である。

A ① 先天性白内障, または緑内障

②先天性心疾患

動脈管開存, 肺動脈狭窄, 心室中隔欠損, 心房中隔欠損など

③感音性難聴

B ① 網膜症

② 骨端発育障害線(XP)

③ 低出生時体重

④ 血小板減少性紫斑病(新生児期のもの)

⑤ 肝脾腫(黄疸を伴うもの,あるいは伴わないもの)